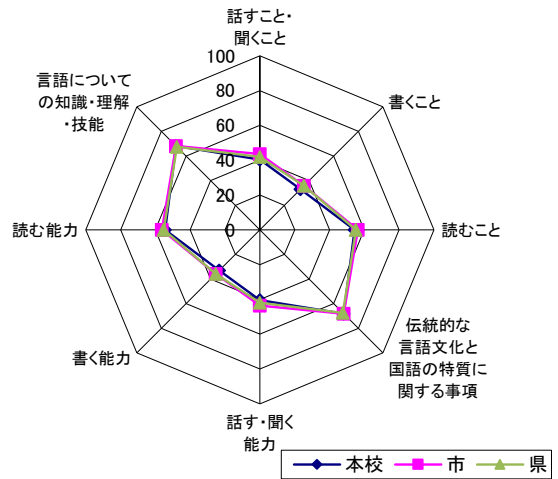


宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.4	43.5	41.8
	書くこと	32.9	35.9	35.8
	読むこと	54.4	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.2	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	40.4	43.5	41.8
	書く能力	32.9	35.9	35.8
	読む能力	54.4	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	68.2	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●「話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる」の設問の正答率は44.7%で課題が見られた。	・話し合い活動を積極的に取り入れ、司会者の役割の理解を進める。大切なことを聞き逃さないようメモを取る機会を増やすなど、話の内容が確実に理解できるように指導を重ねる。
書くこと	●招待状の作成に関して、「入れるべき二つの内容を一文にする」、「付け足す文を記述する」などの設問で正答率が低かった。また、「意見を基に招待状に入れるべき要素を選択する」設問では、県や市の平均を大きく下回った。	・中学年は、見学や体験等をする機会が多い。他教科の学習においても、依頼文やお礼の手紙等を積極的に書かせることで、書き方のポイントを理解させていきたい。
読むこと	○説明文の内容の理解では「目的に応じて文章を要約する」設問で、文学作品の内容の理解では「叙述を基に登場人物の気持ちを想像する」設問で、県や市の平均と同程度であった。 ●説明文で「文章と図を関連付ける」の設問の平均正答率は44.7%、文学作品で「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える」設問の平均正答率は55.3%で、県や市の平均を下回り課題が見られた。	・文学作品の学習においては、登場人物の物語における役割を考えさせたりする活動を通して、さらに読みを深めさせたい。 ・説明文では、中心となる言葉や文に着目させ段落どうしの関係や文章構成図などが理解できるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書き、国語辞典の使い方に関する設問については、県や市の平均と同程度であった。 ●簡単な単語のローマ字による書き方の平均正答率は55.3%、会話文における「」の使い方の平均正答率は47.2%で、県や市の平均を下回った。	・ミニテストや50題テストを実施したり、家庭学習で繰り返し漢字練習に取り組みせたり、練習を繰り返すことで今後も定着を図っていきたい。 ・ローマ字の学習や原稿用紙の使い方など、機会を捉えて指導を繰り返す必要がある。